第15回 日本篆刻家協会役員展

出　品　目　録

会期：令和5年 6月24日（土）～ 8月23日（水）

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
1	井谷（イタニ） 五雲（ゴウン）	君知不	君、知るや否や	王維詩「春桂問答」 井谷五雲訳詩	常任顧問
2	山下（ヤマシタ） 方亭（ホウテイ）	君子懼喪義　小人懼喪利	君子（くんし）は義（ぎ）を喪（うしな）うことを懼（おそ）れる/小人（しょうにん）は利（り）を喪（うしな）うことを懼（おそ）れる	論語	常任顧問
3	尾崎（オザキ） 蒼石（ソウセキ）	鐘鼎山林　昨莫釣魚	文章事業初何有　鐘鼎山林本自同 昨莫釣魚天鏡北　今朝採薬石帆東	陸游詩「稽山道中」	会長
4	真鍋（マナベ） 井蛙（セイア）	老復丁	老いてますます盛んになる	急就篇	理事長
5	喜多（キタ） 芳邑（ホウユウ）	屠蘇沈醉　黄鸝新語音　孤舟漾盡	屠蘇酒にすっかり酔って/うぐいすの初音/一艘の舟が波に揺られて川面を漂う	伊達政宗詩	副理事長
6	酒居（サカイ） 石荘（セキソウ）	戰戰兢兢　如臨深淵　如履薄冰	おそれつ戒めつ/深き淵にのぞむごと/ 薄き氷をふむがごと	詩経　小雅	副理事長
7	小（ショウ） 朴圃（ボクホ）	破天荒　感古慨今　筆歌墨舞 烏兎争飛　説夢向人	―	中島棕隠詩	副理事長
8	伊藤（イトウ） 雅夫（マサオ）	楽天知命	―	易經句	顧問
9	多田（タダ） 龍淵（リュウエン）	長安回望　繡成堆	長安から振り返ると/驪山のあたりの山は錦のように美しく	朴牧	顧問
10	中島（ナカシマ） 春緑（シュンロク）	無量壽	不老長壽のこと	唐・張説	顧問
11	黒田（クロダ） 玉洲（ギョクシュウ）	揮弄潺湲　翫點畫	こんこんと湧く泉水を弄ぶ/書の点画を楽しむ	蘇舜欽詩 「陽冰石篆詩」	代表理事
12	黄（コウ） 平齋（ヘイサイ）	身外浮名何足論 松竹梅歳寒三友桃李杏春風一家	個人の権利富貴は軽く見ること/松竹梅は高品格の三友、桃李杏も吉祥と生気（生命力）の三友である	吉鴻昌対聯句 中国名（対）聯名句	代表理事
13	渡邉（ワタナベ） 和琴（ワキン）	名世不難　傳後難	名をはせることはむつかしからず/後のわざわいを伝へる	趙孟頫の詩中句	代表理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
14	小林(コバヤシ)　畦水(ケイスイ)	上成鬱林　公樂聚穀	上は鬱林(うつりん)をなし/ともに楽しみて穀を聚(あつ)む	「文選」高唐賦	名誉理事
15	田中(タナカ)　緑翠(リョクスイ)	靜坐息機　相送當門有修竹	靜かに坐してその雰囲気に浸る/ 門辺に君を送って出れば竹葉がさやさやそよいでいる	富岡鐵斎の詩	名誉理事
16	堤(ツツミ)　白遊(ハクユウ)	瑞以和降　獅子奮迅	一/獅子が奮い立って、猛進する激しい勢い	一 大般若経	名誉理事
17	保田(ヤスダ)　昌石(ショウセキ)	麗新　康樂　不爭善勝 胡笳一曲　断人腸	うるわしあらた/やすらぎたのしむこと/ あらそわざればよくかつ/こかいっきょく/人のはらわたをたつ	飽泉/周禮/老子 岑参/岑参	名誉理事
18	池田(イケダ)　泥異(デイイ)	我心愛的人　人来人往的城市里 以表我内心対你的一番思念　瞼頬吻 親愛的　保重自己　最后任性 送我條木綿手帕涙拭去	恋人よ/はなやいだ町あなたへの贈りもの/あなたのキスほど/恋人よ/身体に気をつけてね/最後のわがまま/涙ふく木綿のハンカチください	大田裕美 木綿のハンカチーフ	常務理事
19	井後(イゴ)　雅堂(ガドウ)	平安　豚魚　單則易折　殘雪老梅 守以静　出入大吉　夢断酒醒 幽賞清娯　白雲無盡時　卯酒善清愁	一	一	常務理事
20	伊佐治(イサジ)　祥雲(ショウウン)	爲國之道　必崇簡惠 正家之義　允歸儉約	帝王の道	高宗	常務理事
21	石原(イシハラ)　豊玉(ホウギョク)	董正　馬耳東風　東風馬耳	人の意見や批評を全く気にかけないで聞き流すこと	李白詩中句 答王十二寒夜独有懐	常務理事
22	出田(イズタ)　塘葭(トウカ)	最難将息　舊時相識	一	李清照詩「聲々慢句」	常務理事
23	大村(オオムラ)　雪陵(セツリョウ)	簫韶之響　無偏無黨　鹿豕朋友豚方兒孫	一	孔子廟堂碑	常務理事
24	奥田(オクダ)　晨生(シンセイ)	卯酒無虚日	卯の刻(午前6時頃)毎日友と酒を酌み交す	白楽天詩	常務理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
25	梶川(カジカワ) 久美子(クミコ)	舎利子　受想行識 無意識界　集滅道　般若心経	佛様の弟子の名前/「受」感覚、「想」構想作用、「行」心の作用、「識」認識する働き/認識する世界まで何もない/煩悩を滅し尽くした涅槃に達するための方法	般若心経	常務理事
26	北田(キタダ) 成磊(セイライ)	凌江将軍章　（六顆同文）	南北朝時代官印（摹刻）	―	常務理事
27	草田(クサダ) 翠苑(スイエン)	四海皆兄弟	―	―	常務理事
28	熊本(クマモト) 夕生(セキセイ)	芳樹無人	花の咲いた木を愛でる人がいない	李華詩「春行寄興」	常務理事
29	田中(タナカ) 修文(シュウブン)	三界明澂　天清淨　地清淨 人清淨　祓祈詞(ふつきし)	天人地を払い清めて明らかにすること/天は清らかでけがれないこと/地は清らかでけがれないこと/人は清らかでけがれないこと/みそぎ祈る言葉	易経	常務理事
30	戸出(トデ) 九廬(キュウロ)	静裡乾坤　玩鶴観魚	閑静な別天地にいるようである/鶴を玩び魚を観る	菜根譚後集43/ 菜根譚後集125	常務理事
31	中村(ナカムラ) 葉舟(ヨウシュウ)	遏悪揚善　順天休命	悪しきものを抑止し、善きものを賞揚する/大いなる天命に従う	易経	常務理事
32	長谷川(ハセガワ) 帰海(キカイ)	山溜穿石	水滴でも固い石でも穴をあける	言志録	常務理事
33	長谷川(ハセガワ) 拓石(タクセキ)	津頭微径　望城斜　水落孤邨　格嫩沙 黄草菴中　疏雨湿　白頭翁嫗　坐看瓜	渡し場から小道が城に向って斜めにのびている/川の水が減ってやわらかな砂浜があらわれ/それを隔ててひとつの村落がある/その中で白髪頭の翁と嫗が腰掛けて瓜畑の番をしている	賀鑄の詩「野歩」 七言絶句	常務理事
34	東尾(ヒガシオ) 高岳(コウガク)	蝸牛能問字　迹作古文雲	蝸牛は能く字を問う/迹は古文の雲を作す	邊子廬詩句	常務理事
35	古溝(フルミゾ) 幽畦(ユウケイ)	茅檐斷續　縛籬護得	茅檐斷続(ぼうえんだんぞく)する/籬(かき)を縛(しば)って護(まも)り得(え)たり	頼山陽詩	常務理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
36	松本(マツモト)　雅至(マサシ)	有徳簡要　竹林之遊亦預其末 死孝　恒鑽其核　膏肓之疾 苦李　卿　卿輩	人徳があり、あっさりとしていて要を得た言動をする/(私は昔、嵇叔夜や阮嗣宗と一緒に、この酒屋で存分に飲んだものです)私は、あの竹林の遊びの、その末席に列なっていました/自分まで死んでしまうかもしれないような過度の孝行/恒(つね)に其(そ)の核(さね)に鑽(きり)す。いつも売る前に、李の核に錐で傷つけておいた/救いがたい性癖。本来の意は膏(こう)(心臓の下の脂肪)と肓(こう)(胸と腹の間の膜)に入った治る見込みのない病気のこと/苦(にが)い李(すもも)/「あんた」「おまえ」。相手をぞんざいに呼ぶ二人称/二人称で「おまえさんたち」。相手に親しみを込めながらもぞんざいな呼び方のこと	「世説新語」徳行第1・17 「世説新語」傷逝第17・2 「世説新語」徳行第1・17 「世説新語」倹嗇第29・4 王隠「晋書」 「世説新語」雅量第6・4 「世説新語」惑溺第35・6 「世説新語」排調第25・4	常務理事
37	足立(アダチ)　瑠泉(リュウセン)	北渚無河梁　神住同逝感　衡軌若殊跡	北の渚には河にかかる梁(はし)無し/こころは行く人の思いとともに行けます/かりに車の衡(くびき)と車軸が別々の方向を向いていたら	陸雲(西晋)	参事
38	宇於崎(ウオザキ)　碧峯(ヘキホウ)	両枝桃杏(りょうしのとうきょうまがきをはさみてななめなり)夾籬斜　粧点商山副使家(しょうてんしょうざんふくしのいえ) 何事春風容不得(なにごとでしゅんぷうゆるしをえざる)　和鶯吹折数枝花	ふたもとの桃の枝が垣根を挟んで斜めに伸び/ここ商山団練副使の家を風流に彩っている/それがあろうことか春風が放っておかず(印文無)/つけていた数本の花を鶯とともに吹き散らしていった	北宋・王禹偁(おうとしょう) 七言絶句「春日雑興」	参事
39	本郷(ホンゴウ)　紫香(シコウ)	惟善以為寶	惟だ善、以て宝と為す　ただ善人を宝のように重じる	古事　「礼記」	参事
40	米田(ヨネダ)　黄苑(コウエン)	智者處物　謹重嚴毅	智者は物事を処理する事をなす/謹直でおもおもしくおごそか	王猛　國語	参事
41	阿部(アベ)　祥廬(ショウロ)	雲潤星輝　幽鳥相逐	雲潤い星輝く/人気のない所で鳥が追いかけ合う	唐詩	理事
42	石川(イシカワ)　無外(ムガイ)	八面玲瓏　化籠提象	—	—	理事
43	稲垣(イナガキ)　華扇(カセン)	高城回首	町の城楼から去った人の行方を探し求める	釋惠洪詞「青玉案」	理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
44	射場（イバ）　少藍（ショウラン）	寒謝祈農後　會催修禊前	―	足利義根詩	理事
45	今村（イマムラ）　董圃（トウホ）	米公辨印掩倉沮　疑似眞能　判魯魚 一笑淸河矜的嗣　齋徒硬截　古時書	米芾は文字の起源を知り尽くして印を弁じ/真によく疑似の魯魚を判別できた/張丑が『清河書画舫』で米の後継者を自任しているのは笑止/困学斎はただ古い時代の書をむりやり切り取っただけ	丁敬「論印絶句」	理事
46	遠藤（エンドウ）　米子人（ベイシジン）	怡然動色　似聞 簫韶之響　襜襜盛服	怡然（いぜん）タル動色（どうしょく）/聞（き）クニ似（に）タリ/簫韶之響（しょうせうのひびき）/襜襜（せんせん）タル盛服（せいふく）	孔子廟堂碑	理事
47	大田（オオタ）　桂翠（ケイスイ）	世尊拈華　迦葉微笑	言葉にしなくても以心伝心で伝わること	禅語	理事
48	小上（オガミ）　玉菡（ギョクカン）	坐酌冷冷水　看煎瑟瑟塵	座って山から湧き出る清らかな水をくみ/目の前で碧の茶を煎れる	白居易詩 「山泉煎茶有懐」	理事
49	岸村（キシムラ）　爽風（ソウフウ）	逢桃花林　豁然開朗 黄髪垂髫　怡然自楽	桃花の林に逢う/急に開ける/黄ばんだ髪の老人、垂れ髪の幼児/楽しそうにしている	「桃花源記」序	理事
50	木村（キムラ）　容庸（ヨウヨウ）	國士無雙	国中にならぶ者のない人（韓信をたたえた語）	「史記」淮陰侯傳	理事
51	後藤（ゴトウ）　黄太郎（コウタロウ）	天人相関	人間の行為と自然との間には密接な関係がある	中国古代の政治思想	理事
52	嵯峨（サガ）　洛山（ラクザン）	一片冰心　得隴望蜀　直躬證父 散懐　不如學　渭川漁父 癸卯　二三四五六七斉主	―	―	理事
53	坂本（サカモト）　舜華（シュンカ）	願我作佛	われ願わくば佛となりたい	浄土真宗讃佛偈	理事
54	下井（シモイ）　瑤琴（ヨウキン）	春秋代謝　有務中園　戴耘戴耔 迺育迺繁　欣以素牘　和以七弦	春と秋とが入れ替る/田畑での仕事は続く/草を刈り土をかける/育ちゆき繁り栄える/楽しみは書物を読むこと/歌に合わす七弦の琴	陶淵明　自祭文	理事
55	晋（シン）　鷗（オウ）	山河無恙　夢歸西泠	―	―	理事
56	關（セキ）　踏青（トウセイ）	日新者日進也	日に新たなる者は日に進む	「近思録」	理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
57	竹内（タケウチ）　立女（リツジョ）	換鵞遺蹟　水痕留	―	張延濟詩	理事
58	多田（タダ）　稔里（ミノリ）	春到宮齋　花深輦路	春は六宮に到って斉しく/花深くして輦路迷う	祁班孫	理事
59	巽（タツミ）　聖石（ショウセキ）	胸臆虚明　能従庭訓　庭訓有素	心の中にわだかまりがない/能く家庭教育に従う/家庭教育がよいから孝子がうまれる	言志録	理事
60	田原（タハラ）　呉山（ゴザン）	千巖萬壑（せんがんばんがく）	多くの岩と谷、深山幽谷の景勝をいう	晋書　文苑　顧愷之伝	理事
61	寺田（テラダ）　知了（チリョウ）	遊目騁懐　快然自足　群賢畢至 一觴一詠　情隨事遷　暢敍幽情	目の保養をはかり、また心を開いてのべ合う/心地よく満足する/名士の方々に出席いただいた/酒を飲み詩を詠む/気持ちもそれにつれてうつっていくこと/奥深い心情を伸びやかに表すこと	蘭亭序	理事
62	中林（ナカハヤシ）　千影（チカゲ）	獨暄妍　暗香浮動　月黄昏 粉蝶　合断魂	ひとり鮮やかに美しい/どこからともなく香りが漂ってくる/月が黄昏時に/白い蝶/本当に驚く	林逋「山園小梅」	理事
63	中本（ナカモト）　管城（カンジョウ）	芍藥斬新栽（じゃくやくざんしんにさいす）　當庭數朶開（にわにあたりてすうだひらく） 東風與拘束（とうふうためにこうそくせよ）　留待細君來（とどめてさいくんのきたるをまたん）	きわだって新味のある芍薬をうえておいたところ/官舎の庭で数枝の花が咲いた/春風よ、どうかこの花を散らぬように、しばりつけておいてくれ/花をそのままにしておいて細君が、この官舎に到着するのをまつことにしよう	官舎迎内子（かんしゃにないしをむかえ）　有庭花開（ていかのひらくあり） 「盧儲（ろちょ）詩」	理事
64	名倉（ナグラ）　克彦（カツヒコ）	性相近也　習相遠也	人間性は誰でも近似しているが/経験が人の差を大きくする	論語	理事
65	庭田（ニワタ）　露舟（ロシュウ）	鳥聲妍　大田多稼 豆畦種罷　露草鳴蛩	美しい声で鳥が鳴いている/大きい畑は豊かなみのり/豆を畦に植え終える/露草の中でこおろぎが鳴いている	（南宋）方岳「農謡」 （周）詩経「小雅」 （南宋）利登「田家即事」 （明）呉寛詩	理事
66	畑間（ハタマ）　青露（セイロ）	辛苦遭逢　照汗青	ひどい困難や苦しみにであうこと/歴史上に名を輝かせたい	文天祥詩「過零丁洋」	理事
67	花房（ハナフサ）　浩佳（コウケイ）	會于會稽山陰之蘭亭　修禊畢至	会稽郡山陰県蘭亭に集ったのは/禊（みそぎ）を行うためである	「蘭亭序」	理事
68	早川（ハヤカワ）　聴芬（チョウフン）	二十五絃彈夜月	―	錢起詩「歸雁」	理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
69	坂東（バンドウ）　香璋（コウショウ）	古硯微出　福至心霊	―	―	理事
70	福谷（フクタニ）　華紅（カコウ）	有兔爰爰　雉離于罦 我生之初　尚無造	兎が悠々と跳ね回る中/キジが網にかかっている/生まれたばかりのころは/苦労なきことを願ったのに	詩経「兔爰」	理事
71	古瀬（フルセ）　章石（ショウセキ）	参天弐地　禍福得喪　單使臨郡	天や地と同じくらい大きな徳を積むこと/不幸になったり幸福になったり出世したり位を失ったりすること/ただ一人の使者が郡に臨む	「文選」揚雄 蘇軾「与李公択」 「陳書」蕭乾伝	理事
72	古野（フルノ）　燕安（エンアン）	及左衛士督尊書状　過此法期披雲 忽披枉書　因還信奉此　御香両裹 暫闕談披　釈遍照状上	左衛士の督のお手紙/法要の時期がすみましたら/思いもかけずお手紙を頂きました/お遣わしになった使者が還ります/御香二包/暫くお手紙を拝見する暇がありません/手紙を託します	国寳空海筆 忽披帖	理事
73	馬（マ）　景泉（ケイセン）	癸卯大吉　池田博正　延年益寿 一馬當先　萬歳萬々歳　至誠一貫 萬法唯心　萬歳　妙法蓮華経	―	―	理事
74	松本（マツモト）　翠女（スイジョ）	垂鞭直払　五雲車	馬が元気に歩んでいるので鞭を振る必要がなく手に持っています/豪華な馬車の美称	李白詩 陌上贈美人中句	理事
75	松本（マツモト）　艸風（ソウフウ）	遊鵾獨運　凌摩絳霄 寓目囊箱　易輶攸畏	一羽の大鳥がゆうゆうと天空はるかとびめぐる/夕日に映えて赤々とみえる雲をしのぐほど高い所/ふくろの中の書物や本箱の本に注目する/何ごとも軽率にならないように注意する	千字文	理事
76	山根（ヤマネ）　容園（ヨウエン）	奏假無言　時靡有爭	祭場に進み出ていのり、(誠敬の極致を尽くしているので)何らの言説を発しなくても人はおのずから化せられる/(すなわちその時には)だれひとり我れ勝ちに先を争ったりすることなく粛然として斉一である	詩経	理事
77	横井（ヨコイ）　青蓮（セイレン）	水光瀲灩　晴方好　山色空濛 雨亦奇　欲把西湖比西子 淡粧濃抹　總相宜	水の光はさざなみを浮かべ/晴れた時の景色はまさにすばらしい/霧のように山をつつんだ/雨の景色も又ひときわのながめだ/晴れても雨でも美しい西湖の姿を、いにしえの美女西施にたとえてみるならば/薄化粧、たんねんな化粧/なべてみな風情がある	蘇軾詩 飲湖上初晴後雨	理事
78	吉江（ヨシエ）　翠光（スイコウ）	賜也何如	―	―	理事
79	吉田（ヨシダ）　雅風（ガフウ）	千里之行始於足下	千里もある遠い道のりでもまず踏み出した第一歩から始まる、ということ	「老子」	理事

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会

第15回 日本篆刻家協会役員展

No.	姓　号	印　文	解　説	出　典	役　職
80	秋山(アキヤマ)　捷華(ショウカ)	有徳者必有言　有言者不必有徳	有徳者必ず言あり/有言者必ず有徳なし	論語抄　憲問第14	参与
81	川久保(カワクボ)　明(アキラ)	和敬清寂　涼一味	主人と客が心を開き、茶室の雰囲気をやわらげる/夏の暑さの中でさっと涼にふれる	千利休　茶道心得	参与
82	多田(タダ)　學友(ガクユウ)	君子務本本立而道生　和爲貴 徳有鄰　游于芸　楽以忘憂 寛則得衆	君子は何事に対しても力を其の根本に用いて怠らず、根本に立てば、花咲き実のる。十分な効果が生れる/人と睦まじく親しみ合うことが最も貴いということである/徳のある人は孤立することがなく必ず同好の人がいる/六芸を学んで心をゆったりさせる/道を楽みて、其の身の憂あることをしらず/寛なれば則ち衆を得ることが出来る	「論語」学而 /「論語」学而 「論語」里仁 /「論語」述而 「論語」述而 /「論語」陽貨	参与
83	津田(ツダ)　秀鳳(シュウホウ)	一朶佳人　玉釵上　秖疑　燒却翠雲鬟	玉の釵(かんざし)のように挿(かざ)した美しい娘/みずみずしい豊かな黒髪が今にも焼き尽くされてしまいそうでとても心配だ	杜牧「山石榴」	参与
84	永野(ナガノ)　草翠(ソウスイ)	胡蝶双双　入菜花	蝶々が二匹ひらひらと/菜の花の畑へ入っていった	七言絶句 晩春田園雑興十二絶其の三 范成大(はんせいだい)(南宋)	参与
85	青木(アオキ)　雄山(ユウザン)	人無遠慮　必有近憂	遠い将来までも見通した深い考え、思慮がなければ/必ずすぐそこ、身近なところに憂いごと、心配事が生じる	「論語」衛霊公第15	評議員
86	金子(カネコ)　靜巴(セイハ)	層氷春近　九澤雲閑　獨鶴飛	幾重にもはった氷も最早春近く/九澤の雲はしずかに/一羽の鶴は飛び遊ぶ	王勃の詩	評議員
87	三枝(サエグサ)　龍泉(リュウセン)	蒼蒼山上松　颯颯松根雨 松子落空山　朝來不知處	山上の松は青々とした色を呈し/その根かたに颯颯と雨がふりかかり/松子(松ぼっくり)が音もかすかに落ちて/朝まだきその行くえもさだかならぬ	朱彝尊「永嘉雑詩」 五言絶句	評議員
特	梅(バイ)　舒適(ジョテキ)	大方無隅　老而彌篤	—	老子「道徳経」 曾先之「十八史略」	特別展観

主催　日本篆刻家協会　古河市教育委員会